

授業科目

環境衛生工学

| | | | | |
|---------------|------|-----|-------|----|
| 担当教員名 橋本 滋 | 対象学年 | 3・4 | 対象学科 | 救急 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

ディプロマポリシーとの関連性

| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
|-------|-------|-------|----|-------|
| ◎ | ○ | ○ | ○ | |

授業の概要

環境衛生工学は、自然環境と人間活動との調和を考えながら、快適で健康な人間生活を実現するための学問である。本科目では、様々な労働環境が健康にもたらす影響とその対策、職場の労働安全衛生についての基礎知識と労働災害などについて学ぶ。また、多様な職場における働きやすい安全快適な作業環境を整備することで、働く人々の健康障害を未然に防止し、さらには健康の保持増進をもって積極的に安全衛生を確保するという期待に応えるために必要な技術的な知識や考え方についても学習する。

授業の目的

1. 良好な環境の中で人間生活や仕事を行うために、環境測定・評価の重要性を理解する。
2. 大気汚染、上下水道、騒音等のメカニズムを把握し、これらの因子の環境測定における測定・評価方法を理解する。
3. 環境管理と衛生教育の必要性を認識し、職場等で活用できる態度を身に付ける。

学習目標

1. 良好な環境の中で人間生活や仕事を行うために、環境測定・評価の重要性を理解する。
2. 大気汚染、上下水道、騒音等のメカニズムを把握し、これらの因子の環境測定における測定・評価方法を理解する。
3. 環境管理と衛生教育の必要性を認識し、職場等で活用できる態度を身に付ける。

授業計画

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | 学習方法・学習課題・備考 | 担当教員 |
|----|---------------------|--------------|------|
| 1 | 環境因子の測定評価・管理概論 | 講義 | 橋本 滋 |
| 2 | 環境測定・評価の基礎 | 講義 | 橋本 滋 |
| 3 | 水質汚濁、上下水道 | 講義 | 橋本 滋 |
| 4 | 大気汚染 | 講義 | 橋本 滋 |
| 5 | 局所排気装置の基礎 | 講義 | 橋本 滋 |
| 6 | 一般作業環境、換気 | 講義 | 橋本 滋 |
| 7 | 騒音環境の評価方法 | 講義 | 橋本 滋 |
| 8 | 放射線測定法基礎 | 講義 | 橋本 滋 |
| 9 | 作業環境測定「デザイン・サンプリング」 | 講義 | 橋本 滋 |
| 10 | 作業環境測定「評価」 | 講義 | 橋本 滋 |
| 11 | 作業環境測定「簡易法」 | 講義 | 橋本 滋 |
| 12 | 作業環境測定の実際 | 講義 | 橋本 滋 |
| 13 | 環境管理と衛生教育 | 講義 | 橋本 滋 |
| 14 | 一般作業環境まとめ | 講義 | 橋本 滋 |
| 15 | 有害作業環境まとめ | 講義 | 橋本 滋 |

使用図書

| 使用図書 | 書名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 | 価格 | その他 |
|--------|--------------------|------------|------------|-------|--------|-----|
| 教科書 | 衛生管理（上）第一種用 改訂第7版 | 中央労働災害防止協会 | 中央労働災害防止協会 | 2016年 | 2,160円 | |
| 参考書 | | | | | | |
| その他の資料 | 必要に応じて参考資料を適宜配布する。 | | | | | |

評価方法

科目試験（100%）
不合格者に対しては、1回再試験を行う。
必要な場合、レポートを課し、その結果も評価対象とする。

履修上の留意点

科目試験の受験資格は、1～15回目の授業のうち10回以上出席を条件とする。

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に担当教員より連絡する。